



令和6年5月8日

東京都千代田区四番町5番地3  
科学技術振興機構（JST）  
Tel：03-5214-8404（広報課）  
URL <https://www.jst.go.jp>

## J-STAGE運用開始25周年、掲載誌数が4,000誌に到達 ～日本から世界へ着実に研究成果を発信～

JST（理事長 橋本 和仁）が運営する「科学技術情報発信・流通総合システム（J-STAGE）」は、1999年の運用開始から今年で25周年を迎え、掲載されている科学技術刊行物の数が、2024年5月1日で4,000誌に到達しました。

J-STAGEは、日本の学協会などが発行する電子ジャーナルの出版プラットフォームです。J-STAGEの運用を開始した1999年当時、世界の学術出版業界ではジャーナルをインターネット上で公開する「電子ジャーナル出版」が普及し始めていました。一方、当時の日本国内の状況は電子ジャーナル出版への対応が始まったばかりで、J-STAGEの運用開始当初に掲載されたジャーナルはわずか3誌でした。

その後、世界標準への対応を目指して学術情報流通の国際的な動向を注視しながら、国内の学協会などと協力し、より良いシステムやサービスへと改善を重ねてきました。運用開始から25年を経て、国内で発行される科学技術刊行物4,000誌を掲載する世界有数の電子ジャーナルプラットフォームへと成長しました。

2018年度に策定した「我が国のジャーナルの振興に向けたJ-STAGE中長期戦略」を今年度改定し、JSTは今後もJ-STAGEのサービス向上に努め、日本で発表される科学技術情報の迅速な流通と、更なる国際情報発信力の強化、オープンアクセスの推進を図っていきます。

J-STAGE URL：<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/-char/ja>

「我が国のジャーナルの振興に向けたJ-STAGE中長期戦略」（2019年3月）：  
[https://www.jstage.jst.go.jp/static/files/ja/pub\\_JstageStrategy2019.pdf](https://www.jstage.jst.go.jp/static/files/ja/pub_JstageStrategy2019.pdf)

### <添付資料>

別紙：J-STAGE 25年の歩み

### <お問い合わせ先>

科学技術振興機構 情報基盤事業部 研究成果情報グループ

〒102-8666 東京都千代田区四番町5番地3

久保田 壮一（クボタ ソウイチ）

Tel：03-5214-8837 Fax：03-5214-7514

E-mail：[jstage-pr\[at\]jst.go.jp](mailto:jstage-pr@jst.go.jp)

### ＜科学を支え、未来へつなぐ＞

例えば、世界的な気候変動、エネルギーや資源、感染症や食料の問題。私たちの行く手にはあまたの困難が立ちはだかり、乗り越えるための解が求められています。JSTは、これらの困難に「科学技術」で挑みます。新たな価値を生み出すための基礎研究やスタートアップの支援、研究戦略の立案、研究の基盤となる人材の育成や情報の発信、国際卓越研究大学を支援する大学ファンドの運用など。JSTは荒波を渡る船の羅針盤となって進むべき道を示し、多角的に科学技術を支えながら、安全で豊かな暮らしを未来へとつなぎます。

JSTは、科学技術・イノベーション政策推進の中核的な役割を担う国立研究開発法人です。

## J-STAGE 25年の歩み

### <背景と経緯>

1990年代、インターネットの普及に伴い、学術出版業界に「電子ジャーナル出版」という新たな出版形態が登場しました。当時の国内の学協会などにおいては、電子ジャーナル出版の必要性について理解は進んでいましたが、独自に電子ジャーナルを公開するシステムを構築するのに多大なコストがかかるため、実際に電子ジャーナル出版を行っている学協会はわずかでした。また、そうしたノウハウを持たない学協会が海外大手出版社に自機関のジャーナルの出版を委託する例も見られるようになっていました。

こうした状況の中で、日本の研究成果情報を国際的に発信していくために、国内に電子ジャーナル出版プラットフォームを構築することが求められ、1999年10月に「科学技術情報発信・流通総合システム（J-STAGE）」が誕生しました。

### <内容>

J-STAGEは、国内の2,400を超える発行機関が、ジャーナルや会議録など4,000誌の刊行物を公開する、掲載記事数約567万件の電子ジャーナルプラットフォームです。幅広い刊行物をオンライン公開したいという国内の学協会などのニーズに応じて、人文・社会科学を含めた科学技術分野全体を対象とし、技術報告書や会議要旨集を加えるなど、掲載対象誌の範囲を拡大してきました。さらに、歴史的に重要な明治時代以降の刊行物を電子化したアーカイブ誌も公開しています。

昨今のジャーナル出版を取り巻く状況の変化にも対応しています。近年では、世界標準となっている全文XML化の推進を目的として、掲載する発行機関向けに「全文XML作成ツール」を提供し、本文情報の閲覧性や機械可読性の向上を図っています。さらに、発行機関がジャーナルの利用状況をより詳細に把握でき、広報戦略などを検討する際に有益な情報を取得できるダッシュボード機能を提供しています。

研究成果論文の根拠データの公開が求められるようになっていくことを受けて、2020年には掲載記事の関連データを公開するリポジトリ「J-STAGE Data」を構築し、運用を開始しました。2022年には研究成果の迅速な公開とオープンサイエンス推進を目的に、プレプリントサーバ「Jxiv」の運用を開始しました。掲載ジャーナルとプレプリント、研究データのサービス連携を促進し、研究成果の発信力の強化、さらなるオープンサイエンスを進めていきます。

その結果、2024年3月にスペイン高等科学研究院が行った調査<sup>注1)</sup>で、J-STAGEが無料アクセス可能な論文記事を世界で2番目に多く提供するジャーナルポータルサイトであることが示されました。また、2024年5月1日には、掲載されている科学技術刊行物の数が4,000誌に到達しました。

### <今後の展開>

J-STAGEの事業の方向性については、外部有識者による「科学技術情報発信・流通総合システム運営アドバイザー委員会」を設置し、「我が国のジャーナルの振興に向

けたJ-STAGE中長期戦略」<sup>注2)</sup>を策定し、運営方針を公開しています。J-STAGEは今後も時代に即したサービスやシステムの提供を通して、日本で発表される科学技術情報の迅速な流通と、更なる国際情報発信力の強化、オープンアクセスの推進に努めていきます。また、公的な助成によって得られた研究成果を誰もが障壁なく享受できることが求められる時代に、学術情報流通の在り方について検討し、日本の学協会などがジャーナル出版に関する戦略を自ら考える一助となるような情報を提供していきます。

注1) スペイン高等科学研究所が行った調査

TRANSPARENT RANKING: Portals of Journals by Google Scholar (March 2024)

世界リポジトリランキング (2024年3月版)

<https://repositories.webometrics.info/en/node/33>

注2) 「我が国のジャーナルの振興に向けたJ-STAGE中長期戦略」

2019年3月公開、2024年5月改定予定

[https://www.jstage.jst.go.jp/static/files/ja/pub\\_JstageStrategy2019.pdf](https://www.jstage.jst.go.jp/static/files/ja/pub_JstageStrategy2019.pdf)